

清輔本

古今和歌集下

日本古典文学会編

清輔本 古今和歌集 下

昭和四十八年十二月一日印刷
昭和四十九年一月十日発行
定価（上下揃） 二、五〇〇円

〈検印省略〉

編集 日本古典文学会

東京都千代田区六番町四山菱ビル

代表者 山岸 徳平

刊行 日本古典文学刊行会

東京都千代田区六番町四山菱ビル

代表者 山岸 徳平

製作 東京連合印刷株式会社

東京都新宿区新宿二―十九―十三

サカゼンビル

印刷 株式会社精興社

東京都青梅市根ヶ布一―三八五

落丁本・乱丁本はお取替いたします

清輔本

古今和歌集下

日本古典文学会編

凡例

一、宮本長則氏藏清輔本古今和歌集（写本二帖）を、可能な限り原本に忠実に翻刻したものである。

一、翻刻に際し、仮名づかい・見せけち・補入・傍書・頭書・裾書・改行・改面など、すべて原本のままとし、原本の一面を一頁に収めた。

一、但し、技術的な問題から、また読みやすさを考慮して、次のような方針に従った。

1 漢字は原則として正体に統一し、変体平仮名は通行字体に統一した。但し、たとえば次のような漢字は、原本のまま略体・異体をも用いた。

云 哥 調 轉 号 条 早 甫 弁 万 余

2 朱書は、（朱）（以下三行朱）のように、また朱合点は（朱点）、朱線は（朱線）と注記した。

3 声点・ヲコト点の類はすべて省略した。

4 歌頭にアラビア数字で『国歌大観』番号を付した。

5 柱に原本の丁数・表裏を、（1ウ）（2オ）などの形式で示した。

一、巻末に解題を加え、作者索引・初句索引を添えた。

二、本書は、本文については池田利夫（鶴見大学教授）、大曾根章介（中央大学教授）、久保田淳（東京大学助教授）、竹鼻績（山梨女子短期大学助教授）の四名が分担し、解題は竹鼻、索引は池田が担当した。

「古今和謌集 下」

（表紙）

(1ウ)

戀
哀傷
雜

短哥
大歌所哥

哥八十三首
(以下三行卷)
此外他本哥
一首カキ入
ラレタリ

古今和歌集卷第十一 戀哥一

題不知

讀人不知

御本人名皆假名也(卷)

469

ほとゝきすなくやさつきのあやめ草

あやめもしらぬこひもするかな

素性法師

470

をとにのみきくのしらつゆよるはおきて

ひるは思ひにあえすけぬへし

紀貫之

471

よしのかはいはなみたかくゆくみつの

はやくそ人をおもひそめてし

藤原かちおむ

472 しらなみのあとなきかたにゆくふねも

風そたよりのしるへなりける

在原元方

473 おとは山をとにきゝつゝあふさかの

せきのこなたに人をまつかな

474 たちかへりあはれと思ふよそにても

人にこゝろをゝきつしらなみ

貫之

本文別紙

475 世中はかくこそありけれふくかせの

めにみぬ人も戀しかりけり

左近ノむまはのひをりのひむかひに

たてたりけるくるまのしたすた

れよりをんなのほのかにみえけれ

はよみてつかはしける

在原なりひらの朝臣

伊勢語
此哥大和物
語ニハ
返哥ニシス

476

みすもあらすみせぬ人のこひしくは

あやなくけふやなかめくらさん

かへし よみ人しらす

477 しるしらぬなにかあやなくわきていはん

おもひのみこそしるへなりけれ

かすかのまつりのつかひにまかれり

ける時にものみにいてたりける女

のもとにいへをたつねてつかはしける

みふのたゝみね

478 かすかのゝ雪まをわけてをひてくる

ミモミスモタ
レトシリデカ
コヒラルヘオホ
ツカナミノケフ
ノナカメヤト
アリ
業平右中將
也右近小將
時歟

くさのはつかにみえしきみはも

人のはなつみしけるところにまかり
てそこなりけるひとのもとによりて
つかはしける

貫之

479 山さくらかすみのまよりほのかにも

みてし人こそ戀しかりけれ

たいしらす もとかた

480 たよりもあらぬ思ひのあやしきは

心を人につくるなりけり

をふしかうちのみつね

481 はつかりのはつかにこゑをきゝしより

なかそらにのみ物をもふかな

つらゆき

482 あふことの雲のはるかになるかみの

おとにきゝつゝこひわたる哉

よみ人しらす

483 かたいとをこなたかなたによりかけて

万、
ミヤコヘニユカム
フネモカヘリ
コモノミタレテ
思コトツケヤラム

あはすはなにをたまのおにせん

484

ゆふくれのくものはたてに物そおもふ

あまつそらなる人こふるみは

485

かりこものおもひみたれてわれこふと

いもしるらめや人しつけすは

486

つれもなきひとをやねたくしらつゆの

おくとはなけきぬとはしのはん

487

ちはやふる神のやしらのゆふたすき

ひとひも君をかけぬひはなし

488 我^カ戀はむなしきそらにみちぬらし

おもひやれともゆくかたもなし

489 するかなるたこのうらなみたゝぬひは

あれとも君をこひぬ日そなき

490 ゆふつくよさすやをかへのまつのはの

いつともわかぬこひもする哉

491 あしひきの山した水のこかくれて

たきつ心をせきそかねつる

492 よしのかはいはきりとほし^{ヲ(朱)}ゆくみつの

在猿丸集

万葉集人丸哥
コトニイテ、イハ、
ユ、シミ山カハ
ノタキツ心ヲ
セキソカネツル
在家持集

万葉集云
タカヤマノイハ
モトタキチ

をとにはたてしこひはしぬとも

ユク水ノヲト
ニハタテシコヒハ
シヌトモ

493 たきつせのなかにもよとはありてふを

なと我戀のふちせともなき

494 やまたかみした行水のしたにのみ

なかれてこひん戀はしぬとも

495 思ひいつるときはのやまのいはつゝし

いはねはこそあれこひしき物を

496 人しれすおもへはくるしくれなるの

普通ニハ
イロニイテナム

此哥本院大
臣ノ在原北
方トルヨ車ニ
ノスル所ニテ平
仲カ彼北方
ノキヌニムスヒ
ツクル哥也者
平仲哥持
若哥付之歟

すゑつむはなのいろにいてなん